



# かのこゆり

Vol.74



## 熱中症にご用心



救急集中治療科 診療部長

松平 宗典



いよいよ夏本番ですが、暑くなると増えてくるのが熱中症です。

毎年、子供さんが車内に放置されて死亡したり、一人暮らしのお年寄りがクーラーをかけずに熱帯夜の中死亡したり、運動中にふらふらと倒れてそのまま死亡したり…などのニュースが聞かれます。いずれも熱中症によるものです。熱中症とは高温多湿状態で起きる「不慮の事故」です。その死亡率は高く、発症し重症化すると救命することが難しいものです。例えて言うと、「茹で卵は生卵には戻らない」のは物理的な現象で、どんな薬や治療法を行っても戻らないものは戻らないのです。熱中症は、人間の生理的範囲を超えた体温上昇により、体を構成するタンパク質が変性、つまり生卵が茹で卵の状態になってしまうわけで、これが体のごく一部分であれば助けることができますが、重要な臓器、特に脳が変性してしまうと、どうしようもありません。このような事故に対する最大の対策は、事故を起こさないようにすること。特に、自分での判断が困難な子供さんや自覚症状の乏しい高齢者の場合、保護者や介護者の方が、常に注意を払うことが重要です。子供さんは体格が小さく、大人では大丈夫と思っていても予想外に体温上昇が激しいことがあります。人間は汗をかく、体がほてる、という生理現象で体温を調節しています。「子供は汗っかき」というのは小さい体格で温まりやすいので、その分汗をかいて熱を放出しているからです。逆に高齢者の場合は、暑いと感じる感覚機能や汗をかくという代謝機能が低下しているため、ご本人が思う以上に体温が上昇していることがあります。本来の生理機能で体温を保つことができなくなれば、その後はどんどん体温は上昇していきます。そうすると、意識がなくなったり、血圧が低下したり、心臓や腎臓などの臓器に障害が出たりして、最後は多臓器不全という状態となります。ここまで進行すると救命は非常に困難となります。

重要なことは、熱中症を起こさないこと。つまり、高温多湿の状態は危険であると認識し、水分補給や休憩・クールダウンを十分に行うことです。汗には水分だけでなく塩分も含まれていますので、真水ではなく塩分を含む飲料水が最適でしょう。イオン飲料などなかった我々の子供時代には、夏には水分と梅干しを摂られたものです。これは長年の経験から得られた知識でしょうが、水分と塩分を摂る必要があるという意味で、非常に理にかなっていたと思われます。そして、吐き気や頭痛があったり、手足が痙攣、いわゆるこむら返りの状態となったり、意識がぼーっとなったりするような場合は、すぐに風通しのよい日陰に移動し、水分補給とともに、体温を低下させることが必要となります。症状が続くときは医療機関を受診してください。意識がないようならば救急搬送が必要となります。特に、症状を訴えることのできない乳幼児の場合には、一層注意が必要です。蒸し暑い環境にいて、元気がない、ミルクを飲まない、嘔吐する、などの症状が出たら要注意と考えてください。

また、熱中症は、必ずしも真夏の炎天下で起きるわけではありません。気温はそれほどでなくとも、梅雨のジメジメした環境でも十分熱中症は起こりえます。人間は汗をかき、汗が蒸発するときの気化熱で熱を放出しています。湿気の多い環境では気化による熱の放出ができなくなるからです。統計によると、熱中症は屋外と同様に、屋内でも多く発生しています。

このようなことから、毎年夏の時期になると、テレビやインターネットの天気予報で「熱中症指数」という言葉を見聞きすることも多いと思います。気象庁では「高温注意情報」も発令されます。今年の夏はお天気だけではなくこのような情報にも注意を向けてみてはいかがでしょうか。

さらに、冒頭にも述べたように、子供さんの車内放置が原因であることもよく報道されます。クーラーをかけていたから、窓を開けていたから、ちょっとの時間だから…という言い訳は、熱中症を発症し不幸な結果となってしまうと通用しません。欧米では、子供の車内放置は立派な児童虐待、つまり犯罪として認識されています。

また、運動中や野外活動中の「まだ大丈夫」や、高齢者の場合「本人が何も言わないから」も要注意です。危険な状況を察知し自分以外にも、特に弱者（子供と高齢者）に配慮する、そういう優しい社会であって欲しいと思います。最後になりますが、予防と早期発見で不幸なニュースを見ることがなくなることを願わずにいられます。



## 🌻 地域連携室 職員紹介 🌻



医療ソーシャルワーカー（社会福祉士） 田渕 朱美

平成25年4月より、地域連携室にて医療ソーシャルワーカーとして勤務しております田渕朱美と申します。私は、これまで高齢者介護の現場に従事し、介護福祉士として主に認知症の入居者様を対象に、本人主体のサービスを目指した介護に携わって参りました。医療については学び始めたばかりで日々勉強させて頂いています。これまでに培った経験を活かし、更に医療現場での経験を積みながら研鑽し、患者様やご家族様が抱える様々な問題、悩みに寄り添い、安心して相談して頂けるようなワーカーを目指しています。

また、余暇活動としてサークルで打楽器を担当しており、共通の趣味を持たれる方と音楽で繋がる縁を広げられたら嬉しく思います。

皆様のお役にたてます様、感謝の心を忘れずに、優しい手と、確かな手で日進月歩出来るよう頑張ります。どうぞ宜しくお願い致します。



医療ソーシャルワーカー（社会福祉士） 松永 史帆

平成25年4月より、地域連携室にて医療ソーシャルワーカーとして、勤務しております、松永史帆と申します。

私はこれまで、障害者福祉や児童福祉の分野で、社会福祉士、精神保健福祉士として、活動してきました。そこで、関わらせていただいた方々の、どんな小さな声も聞き逃さないよう、常に周囲のニーズに反応できるよう努力してまいりました。

これまで相談される方の思いを傾聴することを大切にして、問題解決に努めてまいりました。対応に苦慮した場合は、同僚や上司に相談するなど、一人で抱え込まず、いろいろな解決方法を検討しました。またこちらから適切な関係機関に連絡するなどして、相談される方がご不快な気持ちにならないよう努力してきました。

医療ソーシャルワーカーとしては、勉強不足を痛感し、反省する日々ですが、少しでも患者さまのお役に立てるよう努力してまいります。患者さまやご家族のお気持ちに寄り添いながら、当院のスタッフや地域の医療機関と連携し、安心して医療を受けていただけるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

# 院内がん登録について

経営企画課 企画情報室

診療情報管理士 木原 竜太

当院は2002年にがん診療連携拠点病院として認定を受け、翌年より院内がん登録を行っており現在までに1万2千件以上のデータを登録しております。

院内がん登録という言葉はまだ聞きなれていない方々が多いと思いますので、少しお話をさせていただきます。

がん登録とは、がんと診断された方の診断日や受診の経緯、さらには進行状況等の項目（約80項目）の情報を収集し登録することです。

この院内がん登録で収集された情報を国立がんセンターへ報告することとなり、国立がんセンターでは全国の拠点病院より報告された情報の収集が行われております。

以下の表は、当院のがん患者の推移となります。

2003年よりどのがんの件数も増えているのが状況です。

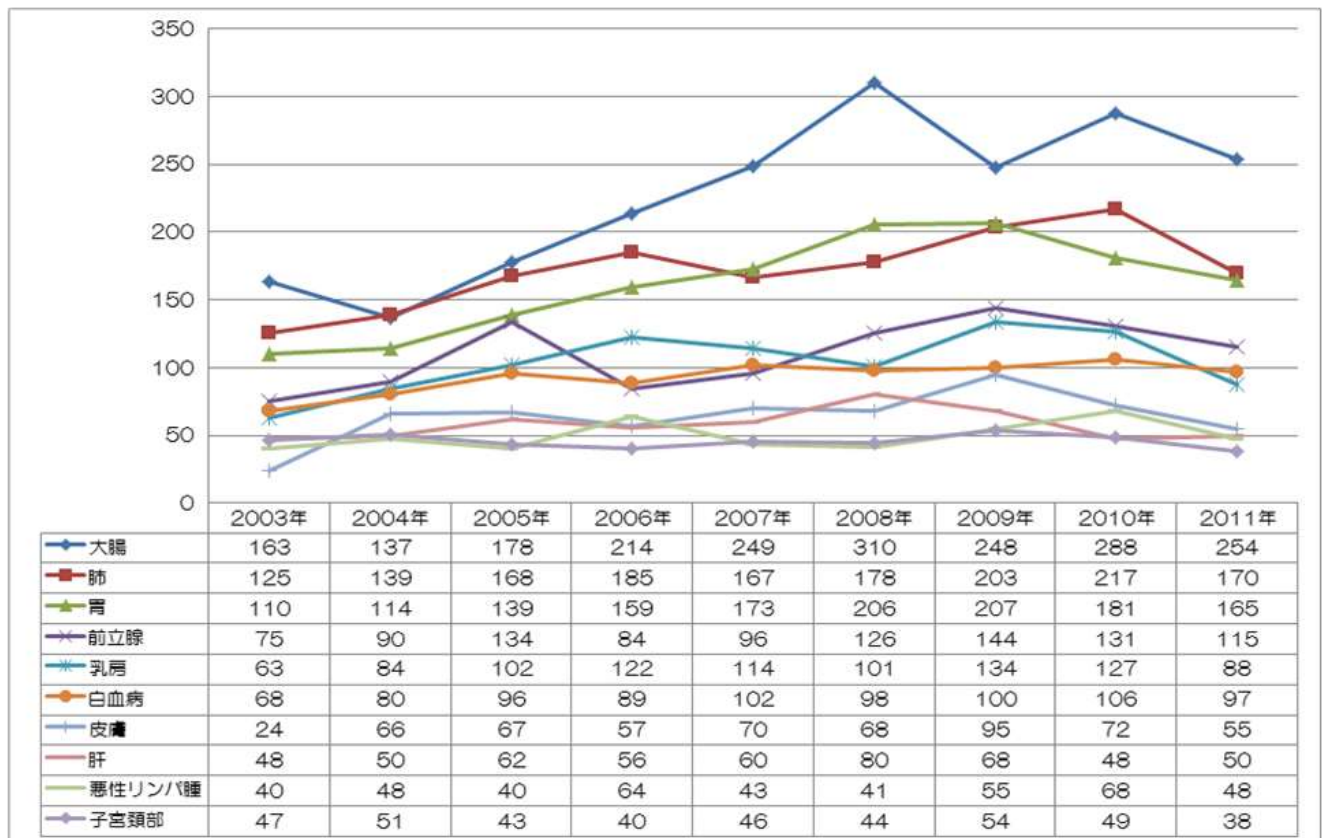
特に全国的に多いとされる胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・肝がんを5大がんといわれており国立がんセンターの集計においてもこの5部位のがん情報が公表されております。

この情報をもとに、どこのがん診療拠点病院が、どのようながんの患者様を診ているのかがわかるようになってきている状況ですが、すべての施設（がん拠点病院以外）の情報を網羅しておらず正確な数がかためていないのが現在の現状です。

このがん登録を行うことによってがんに罹患された患者様やそのご家族の方が有効利用できるような情報を提供することができるようになり治療方法の選択をする上でお役に立てるような情報にしていくことが今後の課題と考えております。



## 部位別がん患者数





## 受診予約（初診）のお願い

当院では、お電話またはご来院での受診予約を行っております。事前に予約をとることで、待ち時間の短縮など患者様の負担軽減に努めております。予約は医療機関様だけでなく、患者様からも受け付けておりますので、ご利用ください。

事前予約をとられた医療機関様は予約日前日までに診療情報提供書をFAXして頂きますようお願いいたします。

TEL：0956—24—1515（内線6148、6923）

FAX：0956—24—0474（地域連携室直通）

## 病院情報

### 平成25年5月の救急外来

患者数	救急車搬入	<u>ドクターヘリ</u> による搬入	紹介患者数	入院患者数
808人	203人	7人	166人	265人 (救急車使用 142人)

### 平成25年5月の紹介患者数

紹介患者数	市内	市外	紹介率
1,986人	1,409人	577人	84.6%



地域連携室の

モットーは

1. 笑顔
2. 親切
3. 丁寧

### 佐世保市立総合病院の理念

私たちは患者様を中心として、安全で安心できる心暖まる医療を提供します。

1. チーム医療の実践
2. インフォームド・コンセントに基づいた医療
3. 先進的な高度医療

〒857-8511 長崎県佐世保市平瀬町9-3

佐世保市立総合病院 地域連携室

室長：中村 昭博

担当：緒方 福田(聖) 酒井 近藤 本村  
田渕 松永 空閑 福田(亜)

TEL (0956) 24-1515 (内線6921)

FAX (0956) 24-0474 (連携室直通)